

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県 可児市

自治体名：岐阜県 可児市

担当課名：文化スポーツ課

電話番号：0574-62-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	87.57 km ²
人口 (R6.5.1現在)	99,842 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数 (R6.5.1現在)	2,644 人
部活動数	55 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

可児市は、休日部活動の地域移行に向けて、令和3年度に制度設計、令和4年度から5年度にかけて保護者会と学校による協働での試行実施を行うとともに、すべての部活動で二者協議・三者協議を重ね、意見集約や課題を整理し、持続可能な地域クラブ活動の確立を目指してきた。

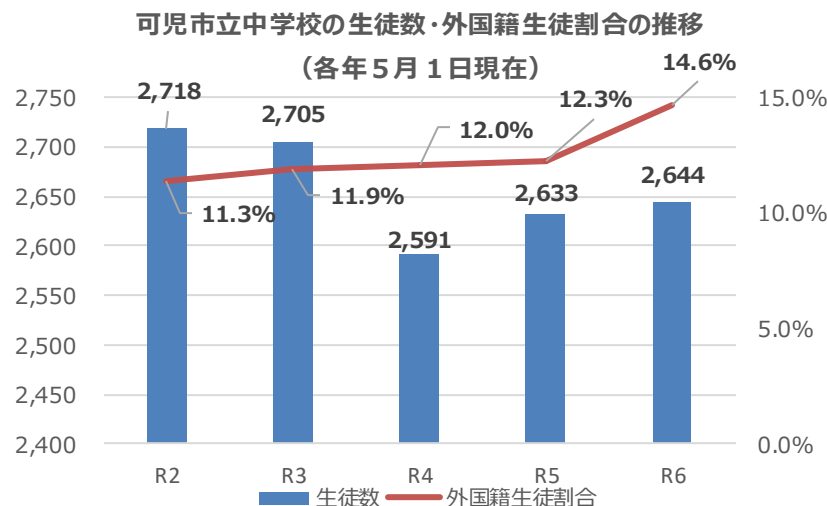
試行実施を進める中で、現在の「部活動が抱える課題」と「地域移行における課題」の大きく2つの課題が明らかになった。

部活動自体に関しては、加入人数の減少、

チームの存続危機やそれに対する不安、やりたい部活動がない、顧問が必ずしも経験者ではないなどの課題が浮かび上がった。

地域移行に関しては、保護者会が地域移行の受け皿では持続困難、指導者が確保できない、保護者負担が増加するなどの課題に加え、地域移行はすべての部活動で一斉に実施すべきとの要望が寄せられていた。

可児市の部活動改革は、これら両方の課題を解決できる体制整備を進め、段階的に地域に移行していく必要がある。



【可児市の特徴】

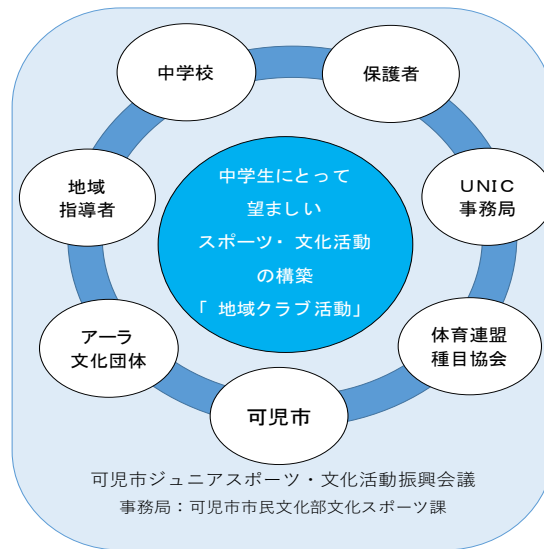
可児市は、外国籍市民が全人口の約9%を占め、市内5校の公立中学校においても、令和6年5月1日現在で14.6%(387人)が外国籍生徒となっている。

このため、部活動改革を進めるにあたっては、外国籍の生徒や保護者にもわかりやすい制度設計が求められる。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（協働型推進体制）



- 保護者：保護者会運営、指導者推薦、活動支援等
- 中学校：部活動地域クラブ連携、地域引継等
- 地域指導者：地域クラブ指導、学校連携、学校引継等
- 体連・種目協会：指導者派遣、指導者講習会、種目協会連携等
- アール・文化団体：指導者派遣、指導者講習会、種目協会連携等
- UNIC事務局：各種事務手続き、体制整備、保険対応等
- ◎可児市地域クラブ活動推進会議：仕組みづくり、支援制度の制定等

●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育総務課・・・学校環境の整備
- ・学校教育課・教育研究所・・・学校との調整・連携、兼職兼業事務
- ・学校・部活動顧問・・・学校施設の貸し出し、地域指導者との連携

◎市長部局

- ・文化スポーツ課・・・部活動改革・地域クラブ活動の主幹、スポーツ施設の貸し出し
- ・財政課・・・予算措置
- ・地域協働課・・・地区センターの貸し出し

年間の事業スケジュール

令和6年4月	可児UNICを実施主体とした地域クラブ活動スタート
令和6年5月	可児市ジュニアスポーツ・文化活動振興会議準備会の開催
令和6年6月	UNIC年会費の徴収
令和6年7月～8月	二者協議・三者協議の実施
令和6年8月	部活動調査委員会の開催
令和6年9月	可児市ジュニアスポーツ・文化活動振興会議準備会の開催
令和6年11月	WEB版指導者講習会開始
令和6年12月	可児市ジュニアスポーツ・文化活動振興会議準備会の開催
令和7年1月	指導者報酬の支払い(4～12月分)（※1～3月分は4月）
令和7年2月	入学説明会
令和7年2月～3月	二者協議・三者協議、学校説明会の実施
令和7年3月	可児市ジュニアスポーツ・文化活動振興会議準備会の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	46 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		46 クラブ（55 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	172 人	全体の運営スタッフ数	6 人

②各クラブに関すること(集約)

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に （新）を付ける	実施回数	実施 時間帯	参加者 （学年別） R6.5.1現在	実施期間	活動場所	指導 者数	運営ス タッフ数 （他クラブ と兼務）	会費	大会参加方法
可児UNIC スポーツクラブ	総合型地 域スポーツ クラブ	軟式野球、ソフト ボール、バレー ボール、バスケット ボール、ソフト テニス、卓球、剣 道、柔道、サッ カー、水泳、陸 上、バドミントン	月4回程度	9:00～ 18:00のう ちの3時間 程度	1年：414人 2年：450人 3年：345人	4月～3月	各中学校 グラウンド 体育館等	172 人	6人 (0人)	年会費 1,000円	原則：部活動

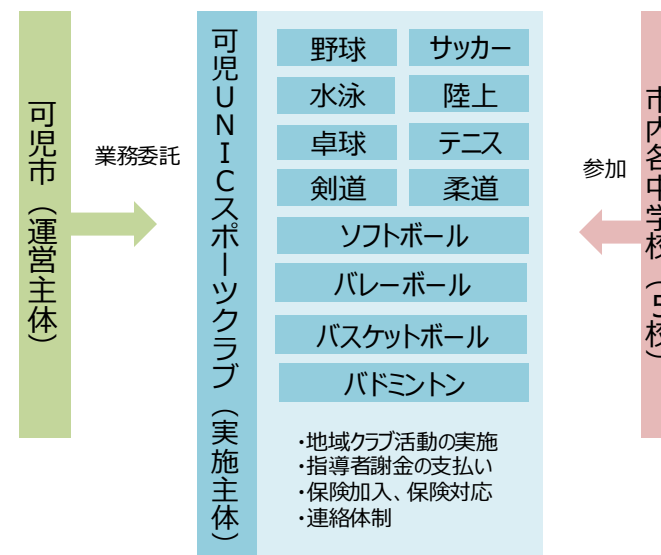
2.実証内容と成果

主な取組例

●可児UNICスポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球、剣道、柔道、サッカー、水泳、陸上、バドミントン
運営団体名	可児UNICスポーツクラブ
期間と日数	4月1日～3月31日 月4回程度
指導者の主な属性	中学校教員、地方公務員、会社員等
活動場所	蘇南中学校、中部中学校 西可児中学校、東可児中学校 広陵中学校 等
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	1,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり ：1,850円/年(64歳未満) ：1,200円/年(65歳以上)

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●地域指導者

役割：教育的な意義を踏まえつつ、部活動顧問と連携しながら、担当種目の技術的指導等を行う。

●運営スタッフ（コーディネーター兼務）

役割：市、学校、地域指導者等と連携を図りながら、地域クラブ活動の管理運営を行うとともに、参画するクラブの登録、生徒・指導者の保険加入、指導者謝金の支払い等の事務を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○地域移行の受け皿として「総合型地域スポーツクラブ」（可児UNIC）による地域クラブ活動を推進する。

○休日部活動の地域移行を進めるため、指導者を確保するとともに、施設の利用調整や、大会の参加申込・随行等についても、段階的に移行できるよう取り組みを進める。

○市に総括コーディネーターを配置し、関係機関との連絡調整や指導助言による全体総括を行うとともに、可児UNICにもコーディネーターを配置し、連絡調整等を円滑に行う。

取組の成果

○可児UNICには、スポーツ少年団をはじめ、多くの会員が在籍しており、会員登録、保険対応、謝金支払い、指導者連携等のノウハウを持ち合わせているため、休日の地域クラブ活動への移行をスムーズに行うことができた。

○休日の指導に関しては、右の表のとおり、協会派遣の指導員20人を含め172人を確保し、全クラブの91.3%に地域指導者を配置することができた。

○市に総括コーディネーター、可児UNICにコーディネーターを配置したことで、関係部署間の連携がよりスムーズに行えるようになった。

地域指導者の配置状況

地域クラブ数	地域指導者配置クラブ数	割合
46クラブ	42クラブ	91.3%

地域指導者登録者数	左のうち協会派遣指導者数	割合
172人	20人	11.6%

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・学校、可児UNIC等を巡回し、課題等のヒアリング・助言等を実施。
- ・準備会の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた。
- ・二者協議、三者協議等の意見を踏まえ、制度の見直しを進め、次年度に向け手引き等の改訂を実施。

今後の課題と対応方針

- 指導者が配置できず、やむを得ず部活動顧問が指導を継続しているクラブもあるため、活動時の見守りや準備・片付け等の補助的支援を担う者の配置や、指導者の公募や登録制度など、持続可能な仕組みづくりを構築していく必要がある。
- 施設の利用調整や、大会の参加申込・随行等の地域移行については、課題も多いため、移行可能な事務の精査や手法などを調査・検討し、対応していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

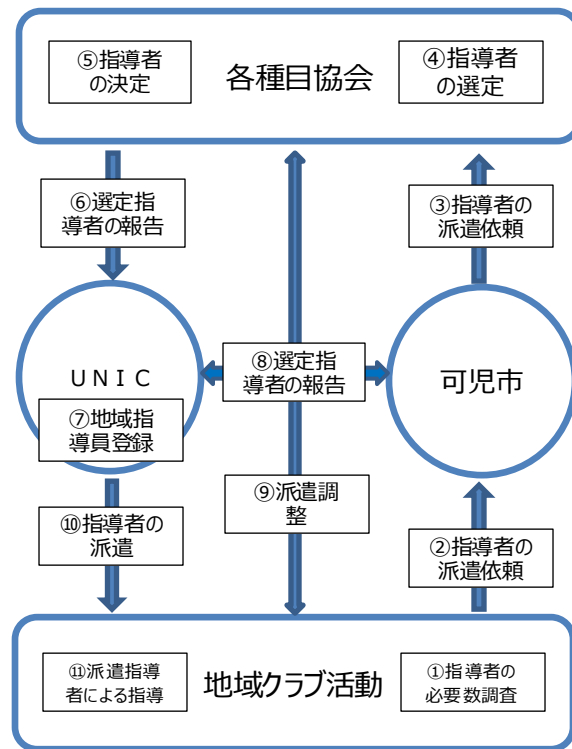


取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 指導者の確保のために、各種目協会や文化団体等と連携して、地域クラブ活動に指導者を派遣する制度を実施する。
- 地域指導者の資質向上と部活動改革の方針や教育的意義についての指導者講習会を実施する。



取組の成果

○ソフトテニス、剣道、卓球、柔道の4つの種目協会を通じて、20名の指導者を派遣いただいた。生徒や学校（部活顧問等）からの聞き取りでは、「専門性の高い技術指導が受けられる」、「試合に勝てるようになり楽しかった」等、満足度の高い声が多く聞かれた。一方で、協会派遣にも限界があるため、派遣制度に替わる新たな仕組みづくりが急務となっている。

○指導者講習会については、これまでの対面方式からWEB方式に変更したことにより、講習会に参加しやすい環境を整えることができた。（詳細は、次頁の②参照）

【可児市中学校部活動調査委員会※での主な意見】

※委員構成：中学校長会代表、各中学校部活動担当、教育研究所、文化スポーツ課職員

- ・休日の先生方の負担が減った。
- ・技術力の大幅な向上に加え、これまで以上に一生懸命に取り組む姿が見られるようになり、生徒に良い影響が出ている。
- ・保護者の意識も変わり、活動を積極的に支援いただけるようになった。
- ・地域指導者による生徒のサポートがとても手厚くありがたい。
- ・休日の練習を平日の学校部活動にも取り入れるようになり、部活動顧問のスキルアップにも繋がっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者講習会の内容

- 講習内容（YouTube動画）
 - ・可児市における部活動改革の経緯と概要
 - ・地域クラブ活動の運営・実施体制
 - ・部活動の意義や効果
 - ・中学生との向き合い方
 - ・仲間とのかかわり指導
 - ・中学生を支える家族の方との向き合い方
 - ・安全管理
 - ・地域指導者の手引きの説明
- 効果測定（eラーニング）
 - ・LoGoフォームによるeラーニング

指導者講習会の参加実績

- 実施日：令和6年11月25日～令和7年3月31日
- 実施方法：WEB方式（YouTubeで講習動画を視聴した後、習熟度を測るため、LoGoフォームによるeラーニングを実施。
eラーニング修了者には後日「修了証」を発行。）
- 参加人数：62人（令和6年12月31日現在）

受講者の声

- ・講習会を対面方式からWEB方式にしたことで、自分の好きな時間に気軽に参加することができた。スマホで受講からeラーニングまで完結することができ、とてもありがたかった。
- ・地域クラブ活動に関する各種手引き等はいただいているが、特に留意いただきたい事項について丁寧に説明いただけたので、制度の理解がさらに深まった。
- ・実際に部活動指導にあたっていた先生（OB）からの話で、とても参考になった。特に、仲間や家族との関わり合いなど、技術的な指導以外の重要性を再認識することができた。
- ・専門家からの難しい話ではなく、全体的に実務に即した内容だったため、わかりやすかった。

今後の課題と対応方針

- ・利用者の利便性を踏まえ、今後もWEB方式での開催を継続したいと考えているが、①動画等の作成に一定の期間と専門性を要する、②制度等の見直しに素早く対応できない、③内容がマンネリ化する恐れがある等の課題がある。更新の時期や頻度等の検討に加え、財団法人可児市体育連盟が行う対面方式での講習会の活用等も行っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

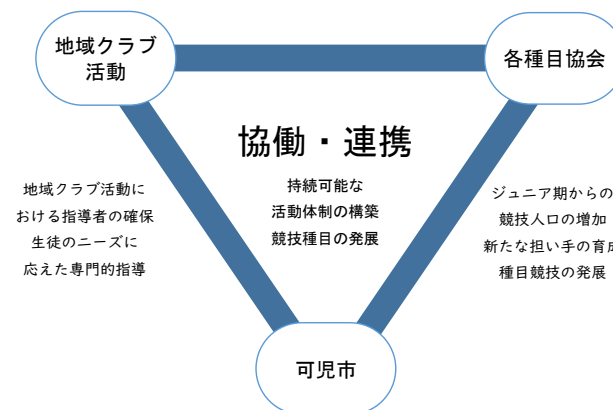
取組事項

○指導者の確保のために、各種目協会や文化団体等と連携して、地域クラブ活動に指導者を派遣する制度を実施する。

取組の成果

○「部活動改革の推進」と「種目協会の活性化」の両方を実現できるよう、各種目協会や文化団体等と協議を行い、協働・連携する体制整備を行った。

○協働・連携体制が構築できた各種目協会や文化団体等から指導者が派遣され、指導者不足の解消につながった。



「部活動改革の推進」と「種目競技の活性化」の両方を実現！！

指導者 派遣実績

①ソフトテニス協会

- ・派遣人数 10人
- ・配置学校数 4校

ほとんどの学校に専門的な指導者がいなかったが、指導者が配置できた。また、協会員同士のため学校間連携や協力も図れるようになった。

②剣道連盟・剣道協会

- ・派遣人数 5人
- ・配置学校数 2校

2つの学校で指導者がいなかったが、連盟及び協会から専門的な指導者が配置できた。また、専門的な指導も行えるようになった。

③卓球協会

- ・派遣人数 1人
- ・配置学校数 1校

どうしても見つけることが出来なかった学校に指導者を派遣することができた。また、専門的な指導も行えるようになった。

④柔道協会

- ・派遣人数 4人
- ・配置学校数 1校

市内に1校しかない柔道部の地域指導者が1名、かつ、高齢なため、協会を通じ4名の指導者を派遣することができた。

今後の課題と対応方針

4種目の協会・連盟等から指導者を派遣することができたが、その他の種目においては、派遣する体制が整っていなかったり、高齢化などの課題を抱えている。引き続き、体育連盟等と連携しつつ、各種目協会の活性化や競技種目の発展、持続可能な活動体制の構築を目指していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

可児市内の中学校に設置しているすべての運動部活動を地域クラブ活動に移行する。

学校との協議や試行実施から得た結果より、「地域移行を一斉に実施してほしい」との意見であったため、すべての運動部活動を一斉に地域クラブ活動に移行する。（文化系部活動も一斉に地域クラブ活動に移行。）

- ・学校部活動 70部（内 スポーツ系部 55部 文化系部 15部）
- ・地域クラブ活動 54クラブ（内 スポーツ活動 46クラブ 文化活動 8クラブ）

※スポーツ活動は、野球の合同チームを部活動は2、地域クラブ活動は1でカウントしていること、6つの部（テニス4と卓球2）において、部活動は男女別、地域クラブ活動は男女合同で実施していること、2部活（陸上、ソフトボール）で地域移行ができていないことにより、スポーツ系の部活動数55から9を引いた46のクラブで地域クラブ活動をスタートした。

※文化活動は、7部活において休日の活動を実施しないため、地域クラブ活動を設置していない。

地域クラブ活動への移行実績

- ・地域クラブ活動設置数：54クラブ
スポーツ活動 46クラブ
文化活動 8クラブ
- ・地域クラブ活動未設置数：2部活
（休日活動しない部活動は除く）
スポーツ活動 2部活 ※
文化活動 0部活
※陸上とソフトボールの各1部活

取組の成果

○中学校の運動部部活動をできることからなく、一斉に地域クラブ活動に移行（2部活は除く）することで、保護者や生徒にもわかりやすい形でスタートすることができた。

○活動内容についても、地域クラブ活動は学校部活動を補完する活動と位置付けており、UNICへの加入や休日の指導者等を除き、部活動と大きく変わらない体制としたため、移行に伴い大きな混乱も生じなかった。

今後の課題と対応方針

2つの部活動を地域クラブ活動に移行することができなかった。陸上部は指導者の確保ができなかったこと、ソフトボール部は市をまたぐ合同チーム（美濃加茂市の中学校と合同）であり、地域クラブ同士の合同チームでは大会参加ができないことから、学校部活動として活動を継続している。この2部活を地域に移行できるように関係者（機関）と協議・調整していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

「可児市立中学校施設利用の手引き」を作成し、施設利用の各種ルールや注意事項、使用料の減免規程を作成し、運用する。

取組の成果

○利用可能な施設や日時、利用手順、利用時・利用後の注意点、遵守事項・責任等、活動への配慮事項などを明記した「可児市立中学校の施設利用の手引き」を作成した。

○利用料は免除とし、従来学校部活動にて使用していた時間帯はこれまでと同様地域クラブ活動においても優先的に利用できるようにした。

○備品の利用範囲や破損・紛失した際の対応などについては「可児市中学生期のスポーツ・文化活動指針（学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン）」及び「地域クラブ活動の手引き」に明記して運用している。

※「可児市立中学校施設利用の手引き」は学校や地域クラブ活動に配布するとともに、可児市のホームページにて公開している。

地域クラブ活動の手引き

地域クラブ活動の設立、団体登録、会員登録、地域指導者の推薦・登録等の申請書類の説明や地域クラブ活動の運営にあたっての手引きです。
地域クラブ活動の手引き(pdf 13988KB)
【様式ダウンロード】

地域クラブ活動提出様式(xlsx 38KB)

※地域クラブ活動届出書 可児UNI Cスポーツクラブ入会申込書、参加生徒名簿、指導者承諾書、年間計画書

指導者の手引き

地域指導者の要件、登録、地域クラブ活動の実施、学校との連携にあたっての指導者向けの手引きです。

地域指導者の手引き(pdf 1187KB)

【様式ダウンロード】

【様式】学校部活動・地域クラブ活動連絡票(docx 42KB)

【様式】指導者出勤簿(xlsx 13KB)

学校施設利用の手引き

地域クラブ活動においては、基本的に学校施設を利用します。そのため学校施設の利用方法についての手引きです。

学校施設利用の手引き(pdf 4444KB)

緊急対応マニュアル

地域クラブ活動中の緊急対応、救急体制についてのマニュアルと応急手当のハンドブックです。

緊急対応マニュアル(pdf 1472KB)

応急手当ハンドブック(pdf 2179KB)

トップ

出展：可児市公式ホームページより

今後の課題と対応方針

学校施設の活用は手引きをもとに運営できている。今後はスマートキーによる運営や施設管理システムの導入などのDXによる利便性の向上も検討していく必要がある。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

可児市における部活動改革は令和3年度に制度設計を行い、令和4年度～5年度の試行実施を経て、令和6年度からすべての運動部活動を対象として、休日の部活動を地域クラブ活動に移行し、5校46クラブ、地域指導者172名による地域クラブ活動を4月から一斉にスタートした。

UNICを実施主体、可児市を運営団体として、生徒がUNIC会員となり、総合型地域スポーツクラブを地域移行の受け皿とした新たな地域クラブ活動の体制を整備し、会員登録、指導者登録、保険加入、報酬支払、保険対応事務などをUNICにより実施することができた。

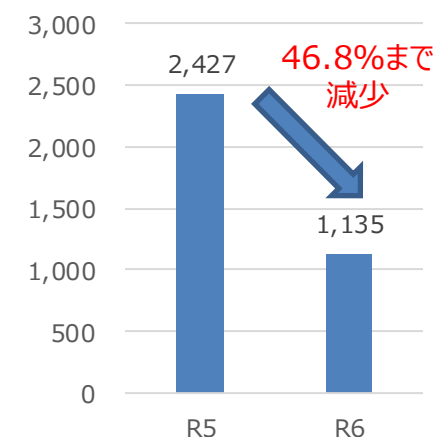
部活動改革の推進にあたっては、お互いが目的を共有して当事者意識を持ち、良い結果を生み出していく「協働型推進体制」で推進している。

また、指針をもとに「可児市における部活動改革プラン」を作成するとともに、生徒・保護者向けの「地域クラブ活動の手引き」、指導者向けの「地域指導者の手引き」など様々なマニュアルを作成しているが、現場の意見を反映しながら、準備会にて不断の見直しを行い、活動を推進している。

●成果の評価

一斉に休日の部活動を地域クラブに移行したことにより、急激な変化が生徒の活動に影響を及ぼさないよう、部活動顧問の協力のもと、段階的に移行を進めることができた。これにより、各生徒においては、これまでの学校部活動と変わらない活動を行うことができている。また、教員の休日出勤を令和5年度に比べ46.8%まで減少させることができた。地域クラブとしての本格実施初年度としては、目標である教員の休日出勤数の半減を達成することができ、可児市としての地域クラブ活動の推進体制を整備することができた。

スポーツ部活動顧問の
休日出勤延べ日数
(4～12月)



●今後に向けて

今後も「休日の部活動」を完全に地域に移行できるように各中学校の地域性や種目ごとにおける課題や問題を整理し、「生徒がやりたい活動ができる中学生にとって望ましいスポーツ・文化活動の実施環境の構築」を行い、「生きる力」の育成を図る。

持続可能な学校部活動・地域クラブ活動の推進体制を構築するため、UNICの組織体制の強化や指導者の確保、予算の確保等を継続的に検討・見直していく。

また、大会参加・監督・施設利用調整などについては、学校が中心となって、段階的に地域クラブに移行できる体制を整備していく。

2.実証内容と成果②

二者協議・三者協議の結果

●二者協議・三者協議を実施

本市の地域クラブ活動については、令和6年4月より可児UNICスポーツクラブを実施主体として本格実施を開始している。
その中で見えてきた課題や問題について、指導者・保護者による「二者」及び学校・指導者・保護者による「三者」で協議し、協議結果を学校で取りまとめるうえ、市へ提出している。（提出した内容と対応は、HPIに公開している。）

●二者協議・三者協議で出された意見等について

①運営体制について

- ・部員数が少ないので、今後学校単位で存続できるのか不安。
 - ・備品の管理について、誰が行うのか不透明。
 - ・警報が出ている場合の対応マニュアルがあるとよい。
- 等

②指導者について

- ・指導者が不足している。指導者がいても今後も続けてもらえるかが不安。
 - ・指導者報酬の支払い時期を細かくできないか。
 - ・指導者を派遣していただき、大変ありがたい。
- 等

③可児UNICスポーツクラブの保険加入等について

- ・途中で退部した際にその分の保険のお金は返金されるのか。
 - ・UNIC年会費の支払い方法を振込にしてほしい。
 - ・スポーツ安全保険の個人賠償はどこまで保険で賄うことが出来るのか。
- 等

④施設利用について

- ・体育館使用料を減免していただきありがたい。
 - ・体育館の予約をするのが大変である。
 - ・場所取りのマニュアルなどがあるとよい。
- 等

⑤各種連絡・連携について

- ・連絡ファイルで状況を確認し合えるのはありがたい。
 - ・欠席連絡や急な活動中止など、使いやすいツールがあるとありがたい。
 - ・顧問、保護者会、指導者と連絡をとりながらできている。
- 等

⑥大会参加について

- ・中体連以外の協会主催の各大会について、部活動扱いか地域クラブ扱いかを共通理解を図ってほしい。
- 等

⑦学校関連の事項について

- ・学校施設の予約手順がどのようなになっているかわかるとよい。
 - ・生徒玄関の鍵の取り付けを急いでほしい。
 - ・テニスコートの状態が悪いため、改善してほしい。
- 等

⑧その他

- ・保護者が活動に関わる機会が増えて、子どもの様子をたまにだけ見る機会が増えたことがありがたい。
 - ・保護者当番の協力を得られない方があり、今後対応を検討したい。
- 等

2.実証内容と成果③

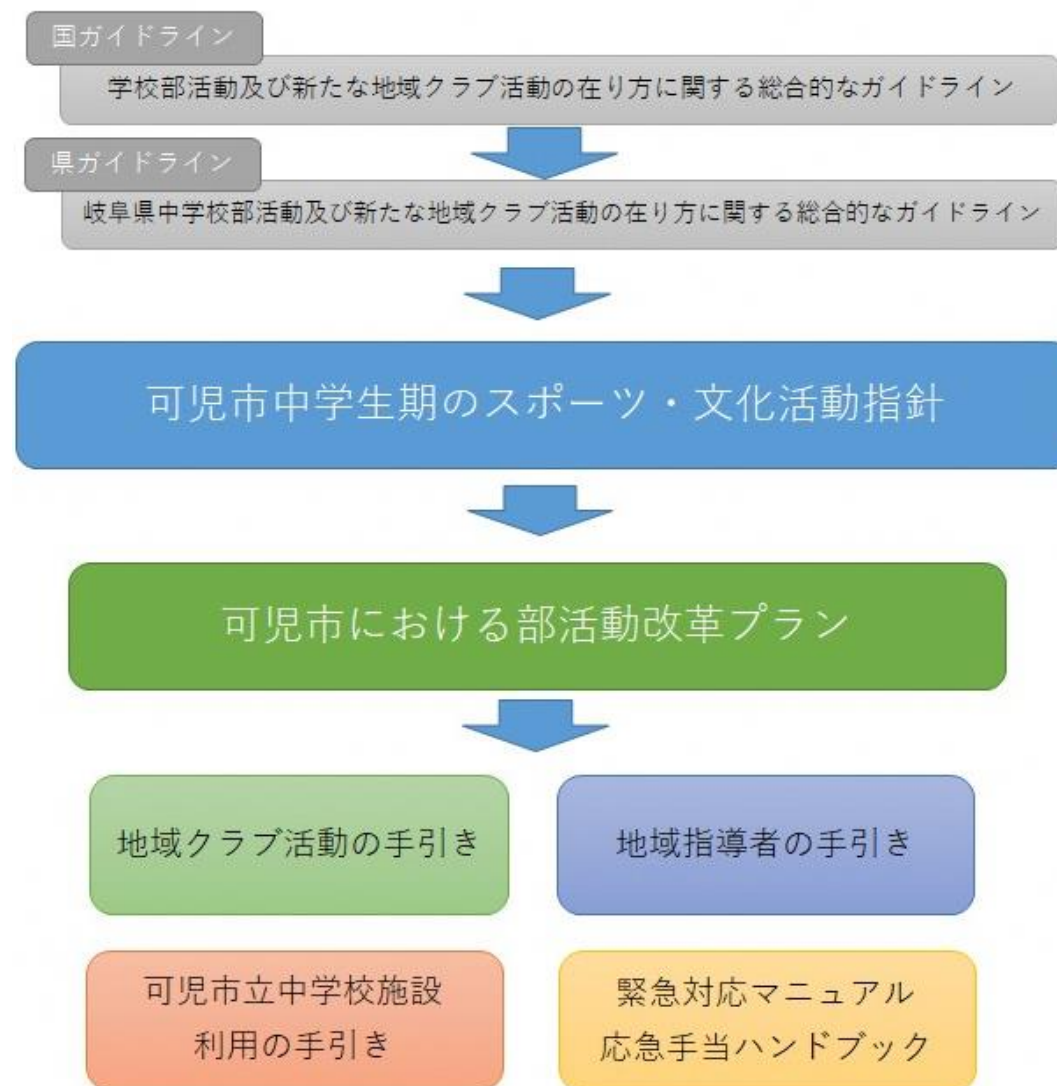
指針・プラン・各種手引きについて

可児市においては、国ガイドライン・県ガイドラインの策定を受けて、令和3年3月に「可児市中中学生期のスポーツ・文化活動指針」を策定し、令和3年度から部活動改革に取り組んでいる。

本指針は中学生期におけるスポーツ・文化活動について、より多くの機会を創出し、多様なニーズに対応した活動ができるよう、市内の中学校の部活動を持続可能なものにするとともに、地域、学校、競技種目等に応じた多様な形での実施環境の構築を目指し、中学生期のスポーツ・文化活動のあり方に関して定めたものである。

本指針をもとに、「可児市における部活動改革プラン」を作成し、詳細のマニュアルとして「地域クラブ活動の手引き」「地域指導者の手引き」「可児市立中学校施設利用の手引き」「緊急対応マニュアル」「応急手当ハンドブック」を作成し運用している。

地域クラブ活動を実施する中で見えてきた課題や問題に対応するため、各種手引き等を随時見直しながら、部活動改革を推進している。



2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【練習風景（サッカー）】



【練習風景（野球）】



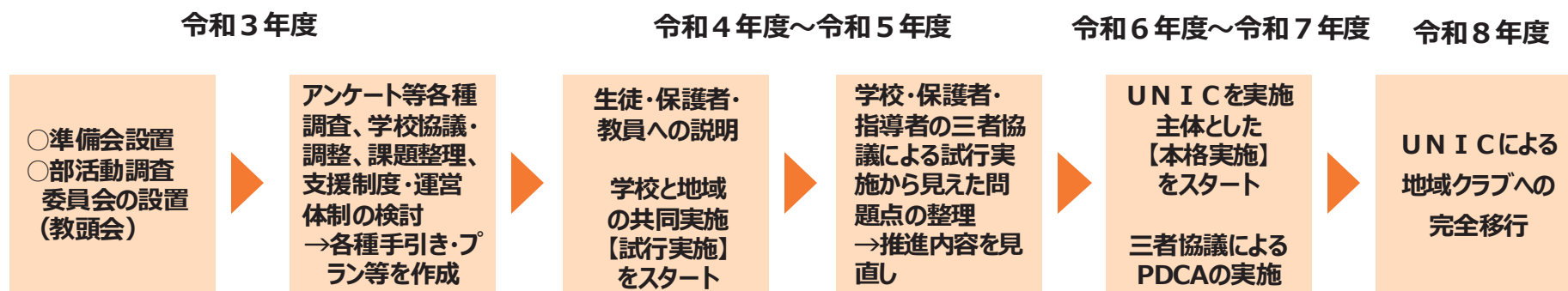
【指導風景（男子バスケ）】



【指導風景（女子バスケ）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、保護者、UNIC事務局、体育連盟、種目協会、アーラ、文化団体、地域指導者、教育委員会、市長部局
 (事務局：市民文化部文化スポーツ課)

●経過

令和3年度に準備会を設置し、支援制度や運営体制の検討を行うとともに、学校との連携を密とするために部活動調査委員会（教頭会）を設置し、調査・協議・検討を行い、指針や各種手引きを作成した。令和4年度から令和5年度の2か年は、学校部活動と地域クラブ活動（保護者会主体）にて共同実施を行い、試行的に地域クラブ活動を実施した。試行実施の結果を踏まえて、準備会・部活動調査委員会にて検討を行った結果、総合型地域スポーツクラブ（可児UNICスポーツクラブ）を受け皿とした実施体制を整備するとともに、地域クラブ・学校利用・指導者等の手引きを作成し、実施主体をUNIC、運営団体を市とした体制で令和6年度から本格実施をスタートした。

●実施内容

令和6年4月から、市内5中学校の部活動を主体とした46の地域クラブを設置し、休日の指導部分を地域指導者に移行した地域クラブ活動をスタートした。

●実施にあたって生じた課題

「指導者不足」「持続可能な指導者の確保」が最も大きな課題である。各種目協会とも協議し指導者を派遣してもらっているが、依然として指導者が不足している。また、指導者が少ないため負担も増大している。

他にも「謝金や交通費、資格手当などの予算確保」「スマートキーの導入」「学校との連携方法」「大会等の参加」「合同チーム・拠点校」「運営体制」なども課題である。

●今後の展開

部活動改革自体が発展途上であるため、年2回学校・保護者・指導者による三者協議をすべてのクラブで実施し、現場の意見や提案をもとに、不断の見直しを行い、改革を進めていく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

STEP1	STEP2		STEP3		STEP4
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
【制度設計期間】	【試行実施期間】		【本格実施期間】		【移行完了】
・ 各種調査 ・ 問題の整理 ・ 支援制度の整備 ・ 運営体制の検討	・ 学校部活動と地域クラブ活動の共同実施（学校部活動主体） ・ 共同実施から見えた課題の聖地 ・ 新たな体制整備		・ UNICを受け皿とした地域クラブ活動の実施（休日の指導部分の移行） ・ 指導以外の部分の段階的な移行 ・ 問題への対応・見直し（随時）		・ 移行完了 令和7年度末までを目途に移行を目指す。

「休日の部活動」を地域クラブに移行！

今後は、地域指導者の更なる拡充に努め、部活動顧問の部活動関連の休日出勤を、令和5年度対比で

- ・ 令和7年度は、「30%以下」とする。
- ・ 令和8年度は、「10%以下」とする。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県 山県市

自治体名：岐阜県 山県市

担当課名：教育委員会生涯学習課

電話番号：0581-22-6845

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積221.98 km ²
人口	24,811 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	584 人
部活動数	27 部活 * 後期22 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

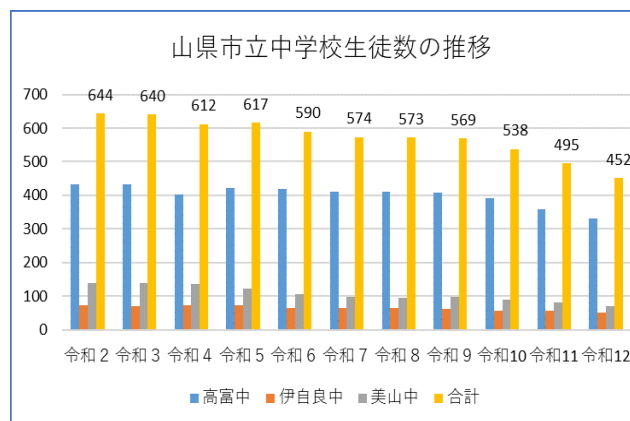
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

1 現状

- 部活動加入率 79% (前年比 6%減)
【割合：運動系 72%、文化系 28%】
- 平日活動日 週 1 日 (冬季はなし)
・ 3 校合同部活動 (バス送迎)
- 今後 10 年で市内中学生 35%減
・ 本年 612 人 → 2032 年 400 人
- 市合同部活動の推進
・ 運動系 10 部、文化系 4 部
- 総合型地域スポーツクラブとの連携
・ 2001 年度から休日は地域で実践

2 課題

- 休日部活動の地域移行の拡大を図る
- 生徒のニーズをつかみ、指導改善につなぐ
- 総合型地域スポーツクラブと体育協会との協力体制を強化する
- 休日の部活動移動支援バス等の運行支援による保護者負担の軽減を図る
- 日頃の指導改善につながる研修会を開催し、指導者のスキルアップを図る



山県市立小・中学校の児童生徒数推計表より作成

令和 6 年度 山県市立中学校部活動の現状

- 部活動加入割合 79% (高富中 77%、伊自良中 83%、美山中 82%)
- 種類別加入者数 運動部活動 72%、文化系部活動 28%
- 部活動形態

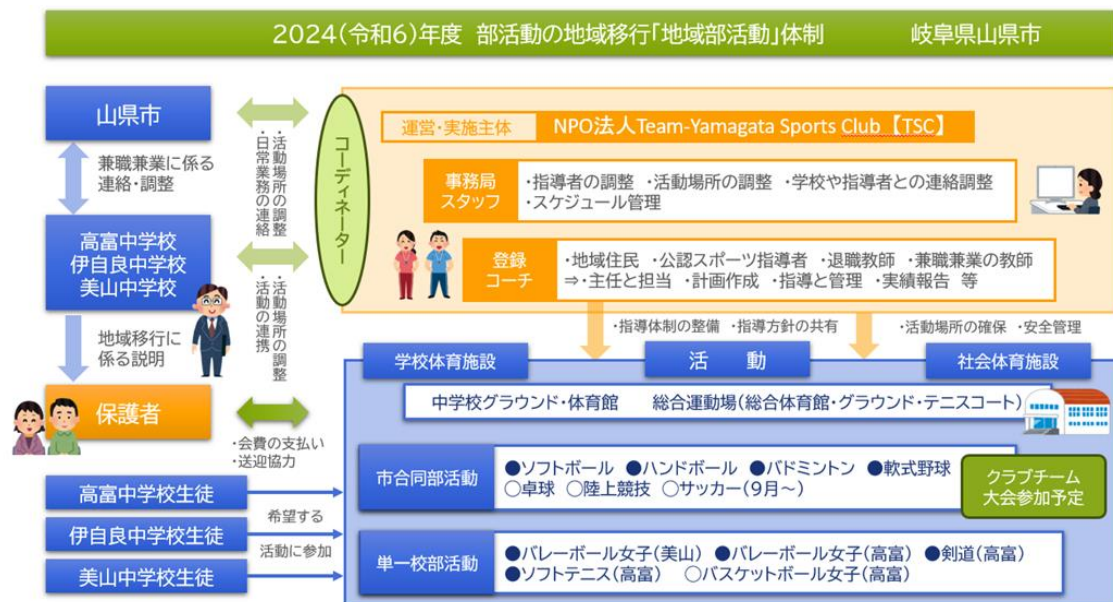
形 態		部 員 数		部 数	
期		前期	後期	前期	後期
合計数		460	294	27	22
(1) 山県市合同部活動		326	261	14	17
運動	軟式野球・ソフトボール・サッカー・女子バスケットボール・ハンドボール・バドミントン・卓球・柔道・男子ソフトテニス・陸上 〔後期から〕男子バレーボール・男子バスケットボール・剣道				
文化	吹奏楽・演劇・美術・新聞				
(2) 2 校合同部活動		0	7	0	1
運動	〔後期から〕女子バレーボール (伊自良・美山)				
(3) 単一校部活動		134	26	13	4
運動	男子バレーボール 2・女子バレーボール 3・男子バスケットボール 2・剣道 2・女子ソフトテニス 3 〔後期〕女子バレーボール 1・女子ソフトテニス 2				
文化	確定 1				

山県市立中学校への調査結果より作成

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会(生涯学習課)主管課

- ・コーディネーター（総合型クラブと学校、市教委との連絡調整）
- ・部活動の地域移行事業の方針と事業展開
- ・地域指導者研修会（県及び市）

◎教育委員会(学校教育課)

- ・山県市合同学校部活動の推進に係る方針、年度計画作成
- ・平日部活動の送迎バス運行
- ・地域移行に関する諸課題・事業の共有と協議

年間の事業スケジュール

令和6年	4月	主任指導者との打合せ・確認
令和6年	6月	第1回スキルアップ研修会 (暴力根絶・救急法・熱中症予防)
令和6年	8月	第2回種目別スキルアップ研修会 (バスケットボールクリニック)
令和6年	8月	新たな地域スポーツ環境を考える会 (スポーツリンク白川視察研修)
令和6年	9月	新たな地域スポーツ環境を考える会 (関係団体との連携強化)
令和6年	9月	今後の部活動方針を発信 (中学校長会)
令和6年	9月	中学生スクール訪問 (TSC倫理委員会訪問)
令和6年	9月	中学生への意識調査実施
令和6年	11月	第3回スキルアップ研修会 (体力測定の生かし方)
令和7年	1月	第4回スキルアップ研修会 (冬季のトレーニング指導)
令和7年	2月	来年度の方針に係る関係者協議 (TSC.中学校長会.市教委)
令和7年	3月	地域部活動種目関係者打合せ (顧問・主任コーチ・保護者会代表)

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	市内3校	実施した地域クラブ総数	12クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		12クラブ（12部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	46人	全体の運営スタッフ数	5人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは未 尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者 数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方 法
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	バレーボール	月4回／ 週1回	13:00-16:00	1年-7人 2年-7人 3年-9人	4/1～ 3/31	美山中学校 体育館	3人	4人 （内兼務3人）	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	ハンドボール	月4回／ 週1回	9:00-12:30	1年-14人 2年-15人 3年-2人	4/1～ 3/31	高富中学校 体育館	4人	4人 （内兼務3人）	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	剣 道	月4回／ 週1回	9:00-12:30	1年-3人 2年-4人 3年-5人	4/1～ 3/31	総合体育館 多目的ホール	4人	4人 （内兼務3人）	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末 尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者 数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方 法
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	女子 バスケット (新)	月 4 回／ 週 1 回	13:00-16:00	1年-14人 2年-6人 3年-3人	4/1～ 3/31	高富中学校 体育館	6人	4人 (内兼務3人)	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	バドミントン	月 4 回／ 週 1 回	9:00-12:00	1年-19人 2年-9人 3年-17人	4/1～ 3/31	総合体育館	3人	4人 (内兼務3人)	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	卓球(新)	月 4 回／ 週 1 回	9:00-12:00	1年-7人 2年-11人 3年-3人	4/1～ 3/31	高富コミュニ ティセンター	3人	4人 (内兼務3人)	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	男子／女子 ソフトテニス	月 4 回／ 週 1 回	9:00-12:00	1年-6人 2年-14人 3年-10人	4/1～ 3/31	総合テニス コート	6人	4人 (内兼務3人)	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	陸上(新)	月 4 回／ 週 1 回	9:00-12:00	1年-5人 2年-5人 3年-6人	4/1～ 3/31	高富中学校 グラウンド	3人	4人 (内兼務3人)	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者 数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	ソフトボール	月 4 回/ 週 1 回	9:00-13:00	1年-5人 2年-1人 3年-3人	4/1~ 3/31	伊自良中・総合グラウンド	4人	4人 (内兼務3人)	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	軟式野球	月 4 回/ 週 1 回	9:00-13:00	1年-8人 2年-5人 3年-10人	4/1~ 10/31	総合グラウンド	6人	4人 (内兼務3人)	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
NPO法人 チーム ヤマガタ スポーツ クラブ	総合型 地域SC	サッカー(新)	月 4 回/ 週 1 回	9:00-11:00	1年-3人 2年-6人 3年-7人	9/1~ 3/31	高富中学校グラウンド	4人	4人 (内兼務3人)	年会費 市内7800円 市外8800円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

「TSCスクール生体力測定会」

令和6年11月30日(土) 7種目37名参加
測定項目：反復横び、5方向走、立ち幅跳び、垂直とび
測定員：TSCコーチ（指導者研修として参加）

「TSCスクール冬季トレーニング教室」

令和7年1月25日(土)
テーマ「走る・跳ぶ・投げる能力を高める」
講師：岐阜県スポーツ科学センター研究員

NPO法人 Team-yamagata Sports Club

参加者募集 スクール生体力測定会 中学生

敏捷性(反復横び、5方向走) パワー(立ち幅跳び、垂直とび)

来月1月25日(土)午後・走跳投など冬季トレーニングの指導を受けます！

開催場所：山県市総合体育館 アリーナ(A・B面)

講師：JATC認定 特別上級トレーニング指導者 大野 隆成 先生

1. 開 始 令和7年1月25日(土) 18:30~20:00 受付18:00~

2. 会 場 山県市総合体育館 アリーナ(A・B面)

3. 対 象 15歳未満の中学生・高校生・社会人・一般市民

4. 参 費 無料(当日会場費として1000円を徴収します)

5. 内 容 ■体力測定(反復横び、5方向走、立ち幅跳び、垂直とび)
■走る・跳ぶ・投げる能力を高めるトレーニング
■走る・跳ぶ・投げる能力を高めるためのストレッチ

6. 備 考 ■当日の参加費は、参加費の50%がTSCの運営費として使われます。

7. 備 考 ■当日の参加費は、参加費の50%がTSCの運営費として使われます。



運営主体「TSC」作成要項

NPO法人 Team-yamagata Sports Club

走る 跳ぶ 投げる

参加者募集 「走る・跳ぶ・投げる能力を高める」 冬季トレーニング教室

今回は、多くの関心がある「走る・跳ぶ・投げる」能力を高めるために、各学年別のトレーニングを行います。

開催場所：岐阜県スポーツ科学センター

講師：恵良 友也先生、大野 隆成 先生

1. 開 始 令和7年1月25日(土) 13:30~15:30 受付13:00~

2. 会 場 山県市総合体育館 アリーナ

3. 対 象 15歳未満の中学生・高校生・社会人・一般市民

4. 参 費 無料(当日会場費として1000円を徴収します)

5. 内 容 ■走る・跳ぶ・投げる能力を高めるトレーニング
■走る・跳ぶ・投げる能力を高めるためのストレッチ

6. 備 考 ■当日の参加費は、参加費の50%がTSCの運営費として使われます。

7. 備 考 ■当日の参加費は、参加費の50%がTSCの運営費として使われます。

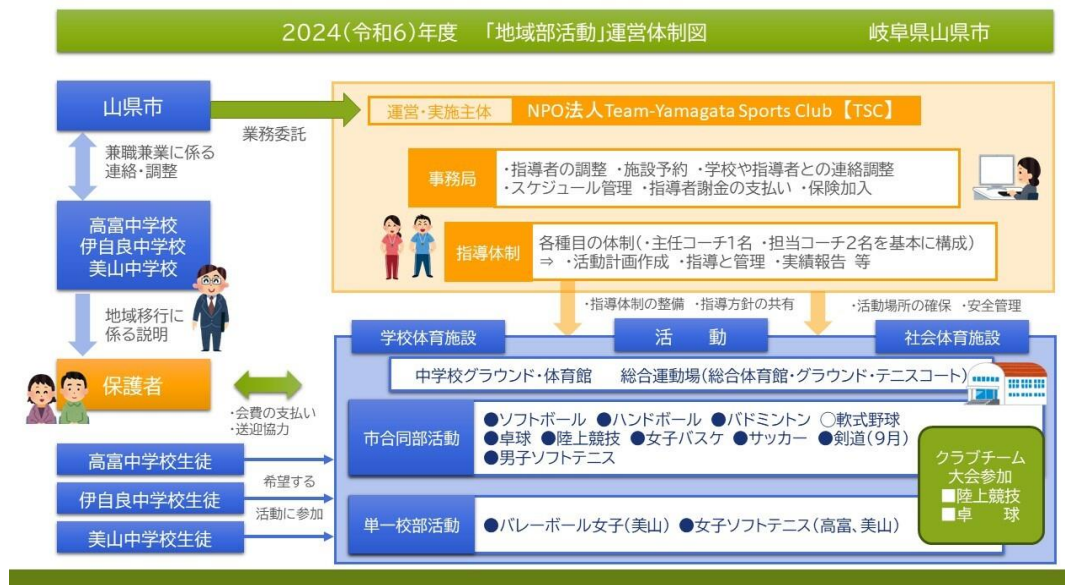
2.実証内容と成果

主な取組例

● NPO法人チームヤマガタスポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトボール、ハンドボール、バドミントン 軟式野球、卓球、陸上競技、剣道 女子バスケット、サッカー、男子ソフトテニス、女子ソフトテニス、女子バレーボール
運営団体名	NPO法人チームヤマガタスポーツクラブ
期間と日数	期間：4月～3月 日数：月4回程度
指導者の主な属性	クラブ登録コーチ
活動場所	総合運動場、中学校グラウンド・体育館
主な移動手段	各自移動（保護者送迎）
1人あたりの参加会費等（年額）	入会金（初年度）1,000円 年会費6,000円 （3年生は半期3,000円選択可能）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● 統括責任者 理事長兼事務局長

役割：事業の総括、全種目共通取組事項の提示

● 主任指導者 各種目 1名

役割：活動計画・指導方針立案、顧問との連携、管理と指導を行う

● 担当指導者 各種目 2名

役割：技術指導、安全管理指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・市コーディネーターによる運営団体と中学校との連絡調整を行う。
- ・運営団体の事務局と担当指導者による連携を強化し、円滑な地域クラブ活動の実施に取り組む。
- ・市教委・運営団体合同訪問事業を通じて、指導運営実態を把握し、指導助言を行う。
- ・休日地域クラブ活動のバスによる送迎の需要調査を行う。

取組の成果

○昨年度は、地域移行に係る連絡調整をコーディネーターが細やかに行ってきたが、本年度は中学校(校長会、部活動主任)及び運営団体の総合型地域スポーツクラブTSCが主体的に動いて連携を図ることとした。運営団体事務局は事務の流れを把握し、円滑に関係者との連絡調整を行うことができた。また、中学校校長会は市の方針を理解し、具体的な方針を作成し、学校側の理解が深まってきた。特に、中体連大会に地域クラブとして2種目が参加したが、顧問・主任コーチが中体連担当者への確認や生徒・保護者への説明を着実にを行い、円滑に参加することができた。

【山口市合同部活動 今後の見通しとして確認事項】
○市の地域部活動への移行の方針
「令和8年度の部活動の地域移行を目指す」それに向け、令和7年度中体連後は山口市合同部活動となるよう話し合いをすすめる。
※人数が試合(団体戦)出場の規定の人数を下回った部は、山口市合同部活動に向けて話し合いをすすめる。ただし、話し合った結果として「学校部活として活動したい部は校長に相談」との記載があり、令和7年度までは認めることもある。
○令和6年度中体連後の新チームの美山、伊自良の部の学校部活について
・伊自良中：学校部活動として活動するのは、女子バレー部1つ。
・美山中：学校部活動として活動するのは、女子バレー部とソフトテニス部の2つ。
・水曜日の部活動については、伊自良、美山のすべての部が高富中へバスで移動し、合同で練習。
※伊自良と美山の女子バレー部は合同チームで活動する。
※男子バレー部は、山口市合同部活動と、岩野田の合同チーム。伊自良中の入部者があれば、岩野田生徒は中体連の現在のルール上参加できないことも考えられる。中体連への要望や、本人への説明が必要。
※ソフトテニス女子は、高富中と美山中は単独だが、伊自良中に入部者あれば山口市合同部活動として高富中と活動し、美山中は学校部活動として活動する予定である。
○規定人数に足りない山口市合同部活動について
・サッカー部は、三輪中と合同で試合に出場
・ソフトボール部は試合に出場しないで練習のみで入部者を待つ
○山口市合同部活動や地域移行に向けて
・令和7年度市の中体連大会は女子バレーと女子ソフトテニスの2種目となる見通し。
・令和7年の中体連後に山口市合同部活になって、令和8年度に地域移行を目指すことや、3校で山口市合同部活動が成立した休日地域移行をしている部はTSCで中体連に出場することが可能となる。これらを学校や顧問は保護者会に周知していく。
※職員もこれらの動きを理解し、保護者会の合同化、ユニフォームの名前、コーチ、練習会場、TSCへ登録など今から必要な情報を提供し、生徒や保護者の合意を得られるようにする。

今後の部活動について(抜粋) 令和6年9月6日 中学校長会

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 週1回の運営団体事務局とのミーティングを実施した。
- 運営団体が行う指導者研修会の企画立案に係る指導助言を行った。
- 種目関係者(顧問・コーチ・保護者会)からの質問や相談を受け、状況に応じて適切に対応できるように指導助言を行った。

今後の課題と対応方針

- 市内3校の合同部活動の休日活動に係る保護者負担を軽減するためのバス送迎予算化に向けた市との協議を行う必要がある。
- 受益者負担と公費負担並びに運営団体への委託費などについての市との協議が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

指導者研修会の開催

第1回（市体育協会と合同開催） 参加21人

6月8日(土) 13:30～16:30 山県市総合体育館

講義「子どもの権利とスポーツの原則」

講義と演習「救急法及び熱中症予防を学ぶ」

講師 JSPOジュニアスポーツ指導員、日本赤十字社認定救急法指導員

第2回 コーチングクリニック 参加指導者5人・生徒28人

8月4日(日) 13:00～16:00 高富中学校体育館

「バスケットボールのスキルアップを図る効果的なトレーニング」

講師 中部学院大学男子バスケットボール部顧問

第3回 コーチングクリニック 参加指導者18人・生徒37人

11月30日(土) 18:30～20:30 山県市総合体育館

「体力測定を指導に生かす」（兼. スクール生体力測定会）

講師 JATI認定 特別上級トレーニング指導者

第4回 コーチングクリニック

1月25日(土) 13:30～16:00 山県市総合体育館

「走る・跳ぶ・投げる能力を高める」冬季トレーニングの実践

講師 岐阜県スポーツ科学センター 研究員他

指導者研修会の様子



「第1回研修会」 講義：子どもの権利とスポーツの原則



演習：救急法



「第2回研修会」 バスケットボールのスキルアップを図る効果的なトレーニング



「第3回研修会」 敏捷性2種目・パワー2種目の正しい測定、測定結果の生かし方を学ぶ

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組の成果

指導者研修会の開催

○第1回の研修は、体育協会と総合型地域スポーツクラブによる合同研修会（コンプライアンス研修）として開催したことにより、市内スポーツ団体との連携の一步とすることができた。

○第2回の研修は、指導法の研修を希望する種目別クリニックとしてバスケットボールが取り組んだ。中部学院大学顧問を講師に招き、開催したが、その後も講師のご厚意により数回にわたって指導に来ていただくことができ、指導法の工夫改善につながっている。

○第3回の研修は、「スポーツ科学を取り入れた指導改善」をねらいとして開催した。指導者は7種目16人、生徒は7種目37人が参加した。生徒には、個票を後日配布し、主任コーチには一覧を提供することができた。

○第4回の研修は、1月25日に実施するが、第3回の研修とつないだ冬季のトレーニング指導を実施する。講師には、岐阜県スポーツ科学センターに依頼している。



実施後にコーチとの意見交流（上）
講師からの生徒への助言（下）



TSC 中学生体カテスト 記録表

令和6年11月30日(土) 山県市総合体育館

種目名	ハンドボール			
氏 名	性別	男子		
	学 年	2 年		
お疲れ様でした。測定結果をもとに、今後の練習や身体トレーニングの課題をもち、取り組みましょう。				
	テスト項目名	成績	単 位	得 点
バ ッ ド ミ ン ト	立ち幅とび	255	cm	9 点
	踏 躍 高 (垂直一歩高)	279	cm	
	指 高	215	cm	
	垂 直 と び (踏躍高一歩高)	64	cm	9 点
跳 躍 性	反復横とび	58	回	8 点
	5 方 向 走	13.4	秒	今週の測定結果 (5秒4秒半)14.6 (6秒27秒)16.3
各テストの得点表 (男子) ※身長とびは50cm以内から10段階、しています。				
得点	立ち幅とび	垂直とび	反復横とび	パワー測定
10	26cm以上	67.5cm以上	63回以上	15kg以上(10kg以上)
9	254~264	63.5~67.4	60~62	10kg以上(10kg未満)
8	242~253	59.5~63.4	56~59	5kg以上(5kg未満)
7	230~241	55.5~59.4	53~55	5kg未満(5kg未満)
6	218~229	51.5~55.4	49~52	5kg未満(5kg未満)
5	203~217	47.5~51.4	45~48	5kg未満(5kg未満)
4	188~202	43.5~47.4	41~44	5kg未満(5kg未満)
3	170~187	39.5~43.4	37~40	5kg未満(5kg未満)
2	150~169	35.5~39.4	30~36	5kg未満(5kg未満)
1	140cm以下	35.4cm以下	29回以下	5kg未満(5kg未満)
各テストの得点表 (女)				
得点	立ち幅とび	垂直とび	反復横とび	跳躍性測定
10	210cm以上	51.1cm以上	53回以上	15kg以上(10kg以上)
9	200~209	48.2~51.0	50~52	10kg以上(10kg未満)
8	190~199	45.3~48.1	46~49	5kg以上(5kg未満)
7	179~189	42.4~45.2	43~45	5kg未満(5kg未満)
6	168~178	39.5~42.3	42~44	5kg未満(5kg未満)
5	157~167	36.6~39.4	39~41	5kg未満(5kg未満)
4	145~156	33.7~36.5	36~38	5kg未満(5kg未満)
3	132~144	30.8~33.6	32~35	5kg未満(5kg未満)
2	118~131	27.9~30.7	27~31	5kg未満(5kg未満)
1	117cm以下	27.8cm以下	26回以下	5kg未満(5kg未満)

TSC作成「参加中学生に提供した体カテスト記録表」

今後の課題と対応方針

- 本年度第1回の研修会は定番として多くの指導者が参加しやすい日にちを設定する。
- 種目別のクリニック形式は好評であり、来年度も希望種目について実施できるようにしたい。岐阜県スポーツ科学トレーニングセンターの助言をいただきながら、効果的な指導方法を取り入れていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・総合型地域スポーツクラブ、体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員など市のスポーツを推進する団体の連携を強化する。

取組の内容

・山県市スポーツ座談会（仮称）を開催する。
・先進地として、一般社団法人スポーツリンク白川への視察を行う。

取組の概要

①山県市スポーツ座談会(仮称) 6月22日(土)

各団体事業の成果と課題を元に今後のスポーツ推進に係る意見交流を行った。

参加者は、有識者3人、スポーツ団体代表者6人、教育長、行政担当者6人の15人。

②先進地視察（白川町） 8月5日(月)

（一社）スポーツリンク白川設立までの取組及び部活動の地域移行の取組について視察を行った。

参加者はスポーツ団体4人、行政4人。

③山県市スポーツ座談会(仮称) 9月2日(月)

先進地視察を終えた感想を交流し、本市にあった取組について意見交流を行った。出席は、視察参加者。



「スポーツリンク白川への視察の様子」

取組の成果

・スポーツ座談会(仮称)を行い、各団体の事業について理解を深めるとともに、今後のスポーツ推進に係る夢や願いを語り合うことができた。
・スポーツリンク白川の視察を通じて、設立までの苦労や努力、熱意を知ると共に部活動の地域移行の取組も含めて参考になることが多く、「山県市モデル」（山県市の実情に合ったやり方）を見出していくために貴重な機会となった。

今後の課題と対応方針

・多世代、多志向に応えるプログラム（体験、教室、大会等）を整備する上で、体育協会、スポーツ推進委員等の団体が積極的に参画できるように連携を強化していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 市内3中学校の部活動を地域移行の取組促進
- 地域クラブでの大会参加の取組促進

活動種目

- ◎ **休日は地域クラブで12種目**
 - ・軟式野球(10月以降は学校)
 - ・ソフトボール ・サッカー ・陸上
 - ・女子バレー ・女子バスケ
 - ・ハンドボール ・バドミントン
 - ・剣道 ・卓球 ・男女ソフトテニス
- ◎ **地域クラブでの大会参加2種目**
 - ・陸上競技 ・卓球

市外中学校との合同活動

「サッカー」クラブ同士の合同練習
休日は、TSCサッカースクールで岐阜市三輪中学校（みわスポーツクラブ）と合同練習を実施している。お互いに後期は部員数が不足していたことがきっかけである。
このケースは、運営主体TSCや顧問と協議を行い、安定的に持続できるように進めてきた。

市外中学校からも参加

「卓球」「陸上」「バレーボール」等市外中学生の参加
・卓球には卓球部のない岐阜市の中学校から数名参加している。
・陸上には近隣市の中学校から練習環境としてTSC会員となり活動している生徒もいる。
・女子バレーボールも陸上と同様に練習に参加している生徒がいる。

6年度運動部活動と「TSC」連携及び地域移行の状況

No.	種目	学校部活動				TSC活動 練習活動	大会 参加	合同部・地域移行の状況
		市	高富中	伊良中	美山中			
1	バドミントン	◎				SA・TA	学校	5年度から移行
2	ソフトボール	◎				SA + SB	学校	5年度から移行
3	陸上競技	◎				SA + SB	TSC	6年度新規移行、TSCで大会参加
4	軟式野球	◎				SA + SB	学校	11月から、指導者確保できるまで学校部活動で
5	ハンドボール	◎				SA + SB	学校	5年度から移行
6	柔道	◎					学校	6年度は指導者確保できず学校部活動で
7	サッカー	◎				SA + SB	学校	6年度後期から新規移行、三輪中と合同活動
8	卓球	◎				SA + SB	TSC	6年度新規移行、TSCで大会参加
9	剣道	◎				SA・TA	学校	5年度から移行、6年度後期から市合同部に
10	男子ソフトテニス	◎				SA + SB	学校	5年度から移行
11	女子ソフトテニス		◎		◎	SA + SB	学校	5年度から移行・活動はTSCで、大会は学校毎で
12	男子バスケットボール	○				SB	学校	6年度後期から市合同部に、休日は学校部活動
13	女子バスケットボール	◎				SA + SB	学校	6年度新規移行、6年度から市合同部
14	男子バレーボール	○					学校	6年度から市合同部、休日は学校部活動
15	女子バレーボール		○	○	◎	SA + SB	学校	美山中は5年度から移行、
計		13	2	1	2	SA12	TSC2	

◎：休日地域部活動実施 ○：休日学校部活動

SA(スクールA地域部活動) SB(スクールBフリー) TA(競技力向上教室)

山県市教育委員会生涯学習課作成資料

取組の成果

- 休日地域部活動は、昨年度8部から本年度12部に増加した。
- 地域クラブでの大会参加は本年度からであったが、陸上と卓球の2部が参加した。
- 地域移行種目は、関係者の理解を得て円滑に実施できた。

今後の課題と対応方針

- 地域クラブ指導者を確保する。
 - ・柔道（昨年度末で引退）
 - ・軟式野球(10月で退任)
- 部員数不足の種目の対応を学校側と協議する。
 - ・休廃部、他校(他市)との合同の方針を明確にする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○競技力向上を志向する生徒へのプログラムを展開する。

- ・バスケットボール教室
- ・体力測定会
- ・冬季トレーニング教室

※活動の詳細は、取組項目イ：指導者の質の保障・量の確保②に掲載した。

○参加生徒への意識調査を実施し、指導改善につなぐ。

- ・実施時期 9月
- ・対象 1,2年生会員

意識調査対象

□調査対象は生徒のみ。

- ・昨年度、生徒・保護者・コーチ・顧問に調査を実施した。本年度は生徒の満足度を中心に調査し、指導改善(内容の充実)に生かすようにした。

意識調査人数

□119人(1,2年生会員)

- ・バレーボール8 ・サッカー8
- ・ハンドボール28 ・卓球7
- ・ソフトボール3 ・剣道7
- ・バスケットボール10
- ・バドミントン10 ・陸上競技6
- ・軟式野球11 ・ソフトテニス21

取組の成果

- ①加入の目的は、「楽しく、向上」が最も多かった。
 - ②TSC活動満足度「4.1」 昨年度と同じ。
 - ③体力/技能の満足度「3.9」 昨年度より0.2ポイント下がった。
 - ④仲間関係満足度「4.1」 昨年度と同じ。
 - ⑤活動日数 学校部活動「60%」 TSC活動「70%」が適当。
活動時間 学校部活動「79%」 TSC活動「75%」が適当。
 - ⑥コーチ指導の満足度「4.0」(4以上が7種目、内4.5以上は4種目)
 - ⑦コーチ指導の感想
指導がわかりやすい「77%」 体力・技能が向上している「75%」
指導が厳しい・わかりにくい「14%」(一部の種目)
 - ⑧改善を期待すること
・方針、頻度、活動内容、指導等に関する意見が出された。
・活動内容と指導に関する記述が最も多かった。
- ★本結果は、各指導者、TSC理事会にて報告され、指導改善への参考とするように取組がなされた。

今後の課題と対応方針

■「学び続ける・生徒と共に成長するコーチ」を育成するために、「生徒の声」を真摯に受け止め、「勝利至上主義やマンネリ化した指導」に陥ることなく、課題解決につながる研修会を開催し、スキルアップを図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組事項

TSC倫理委員会 中学生スクール訪問

9月21日(土)に6種目を訪問し、活動見学と委員長からの激励を行った。
訪問後にクラブハウスで意見交流を行い、訪問の感想を後日まとめて配信した。

TSC倫理委員会スクール訪問日程等について

令和6年9月21日(土) 9:00~12:00

◇趣 旨

- 中学生スクールの活動見学による実態調査
 - ⇒中学生指導者へのお礼と適切な指導の依頼
(生徒の成長を支える専門的指導と教育的配慮、体罰・暴言・ハラスメント根絶)
 - ⇒中学生会員への激励
(目標・課題をもって、仲間と意欲的に活動。困ったことの相談)
 - ⇒委員からの感想や意見を指導者に伝え、良い点を広げ、指摘事項は改善につなげる。

◇出席依頼

TSC 倫理委員会

森田正男委員長、山元敏治副委員長、服部長務指導者部会長、武藤敏行イベント部会長
民谷千寿子理事長兼事務局、谷端良夫副理事長、前田恵津子地域部活動担当事務局
*民谷理事長兼事務局は、バドミントンスクール指導後、ミーティングに参加。

◇日 程

9:00	挨拶・日程説明	(クラブハウス)
9:30	陸上競技	(高富中グラウンド)
9:50	サッカー	(高富中グラウンド)
10:10	バスケットボール	(高富中体育館)
10:30	休憩	(クラブハウス)
10:45	ソフトテニス	(総合テニスコート)
11:15	バドミントン	(総合体育館アリーナ)
11:35	剣道	(総合体育館多目的ホール2F)
12:00	委員ミーティング	(クラブハウス)
12:50	終了	

運営主体「TSC」作成資料

TSC倫理委員会 中学生スクール訪問の様子



本年度から新たに加わった種目「サッカー」「陸上競技」への訪問



「バスケットボール女子」への訪問



「ソフトテニス男子・女子」への訪問



「バドミントン」への訪問



新チームから市合同部となった「剣道」への訪問

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

TSC倫理委員会 中学生スクール訪問

○元教育長・小中校長、保健体育科教員OB、元高校バレー監督、県バドミントン協会役員などの実績のあるメンバーで構成された倫理委員会メンバーであり、中学生への望ましい指導について短時間での訪問であっても、よさや課題を見いだすことができた。

以下に、TSC作成の委員感想メモを記載する。

1. 陸上競技

- ・生徒一人一人の能力をつかみ、温かい指導で、また、するどい指導でとてもうれしかった。
- ・リーダーを中心に、よくまとまっていて、気持ちがよい。
- ・個に応じた指導が素晴らしい。生徒のやりがい、生きがいにつながる。
- ・陸上競技は短距離、跳躍、中長距離、投擲と種目が多いため、生徒が取り組む種目に応じた練習方法や個に応じた指導が大変だと思うが、コーチ間で情報共有、指導方法の共有や生徒自身が自分の練習計画を立てる力を育てていただけるとよいと思う。

2. サッカー

- ・コーチが組織だって指導している様子に、とても心強く感じた。
- ・一つの場面での動き・技能を的確に指導し、コーチ間の役割分担や協力体制の中で行われており、複数コーチによる指導の在り方として大変参考になった。
- ・クラブチームが多い中で、TSCに来ている子たちを大切に指導してほしい。

3. バスケットボール女子

- ・女子バスケットボールの真面目な生徒の取組とコーチの熱意がうれしかった。
- ・生徒自ら進んで練習に取り組む姿が見られた点がよかった。
- ・参加人数も多く、雰囲気もよかった。

4. ソフトテニス

- ・親切な指導がされ、温かさを感じた。指導者の生徒への思いが伝わってきた。
- ・生徒たちも楽しそうに練習しており、このまま指導を続けてほしい。
- ・コーチによる個人指導（言葉と動きで示す）が充実している。
- ・参加人数が多く、活気がある。生徒同士や生徒とコーチのコミュニケーションもよく取れていた。
- ・指導者が生徒にいていねいに指導にしている姿がよいと思う。

5. バドミントン

- ・生徒一人一人への指導を熱心に行っておられた。
- ・多くの生徒が参加しているが、全体的に生徒同士が組織だった感じがあり、とてもうれしかった。
- ・参加生徒数に対する練習コート面数もちょうどよいと感じた。（練習量確保の面）

6. 剣道

- ・熱心で、温かく、一人一人を十分に捉えた指導であり、安定感のある活動であった。
- ・中学校の三校合同での取組がとても素晴らしい。
- ・小学生と一緒に練習する場面があり、異年齢で学ぶよさが感じられた。
- ・活気があってよい。根気強く、粘り強い指導が大切であると感じた。

今後の課題と対応方針

- 各委員からは、昨年度のように全学年が揃う中体連大会前の6月頃に来年度は実施してほしいと要望があった。
- また、全体に対して「今日の目標や課題を全体や個人で明確にもち、練習することを大切にしてほしい。パフォーマンス向上に有効である。」と委員から助言があり、各コーチに伝えていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

TSCは、2001年以来、要保護・準要保護家庭の山県市内小・中学生会費について、年会費を扶助している。

山県市就学援助費支給の可否決定通知書の認定の証明書を持参の上、捺印を頂き申請としている。

取組の成果

■扶助内容

○扶助申請の提出に伴い、既納金額を返金

扶助額(全額返金) ¥7,800

(内訳) 入会金 ¥1,000

年会費 ¥6,000

スポーツ保険 ¥800

要保護・準要保護家庭の生徒への支援

■本年度の実績

【扶助対象者内訳】

1年生→5人 2年生→3人 3年生→1人

【返金額】

¥7,800→4人(合計¥31,200)

¥6,800→5人(合計¥34,000) 2期申請者

TSC入会案内(会費等)

TSCホームページ、市内中学校に募集チラシとともに扶助制度について周知を図っている。

■クラブ会員 ご入会案内

※入会時に下記必要経費をお納め頂くだけで月々の会費は不要です。(1種目の金額ではありません)
※複数のスクールスポーツ広場に参加できます!

区分	金額	備考
入会金	1,000円	入会初年度のみ必要となります。 令和5年度からの継続会員は不要です。
年会費	住所区分 1期 2期 3期 山県市内 6,000円 5,000円 3,000円 山県市外 7,000円 6,000円 4,000円	入会時にお支払いください。 入会期による年会費は次のとおり。 1期(4月～) 2期(8月～) 3期(12月～) ※山県市外は身分証明書を提示してください。
中学3年生のみ	山県市内 半期4,000円 年間6,000円 山県市外 半期5,000円 年間7,000円	中学3年生は会員期間が半期(4～9月)又は年間の選択ができます。
中学生以下	800円	【スポーツ安全保険】 ●活動中と活動後参加のための任意時に適用されます。 ●中学生以下は任意加入。高校生以上は任意加入とさせていただきます。 ●未加入者は自己の責任にて対応願います。
保険	中学生以下 (フイ) 1,450円 高校生以上 1,850円 65歳以上 1,200円	

※クラブでは、要保護・準要保護家庭の山県市内小・中学生会員について、年会費を扶助します。詳細はクラブ事務局にお問い合わせください。

■賛助会員 募集中!!

区分	金額	備考
サポーター	一口 500円	クラブ運営を支援していただく個人。 二口以上の方には、クラブグッズをプレゼントいたします。
スポンサー	一口 5,000円	クラブ運営を支援していただく団体・企業。 口数に応じて、各種を企業様の広告を掲載します。

「TSC募集チラシより(抜粋)」

TSC扶助制度の対象者と扶助内容

対象者

次の(1)、(2)に該当し、山県市内小・中学校に在籍する児童生徒の家庭

(1)生活保護法第6条第2項の規定による要保護者

(2)市町村教育委員会が就学援助費事務取扱要綱等によって認定した準要保護者

扶助内容

該当区分		年会費	入会金	保険
小・中学生	要保護	全額免除	1,000円	800円又は 1,450円
	準要保護	半額免除		
中学生 ※11種目	要保護	全額免除		
	準要保護			

※令和6年度 中学校部活の地域移行に係る国の実証事業対象11種目

- ・ハンドボール ・バドミントン ・バスケット女子 ・卓球 ・剣道
- ・ソフトボール ・ソフトテニス ・軟式野球 ・サッカー(9月からの予定)
- ・バレーボール女子【美山Sは4月から・高富Sは9月からの予定】 ・陸上

「TSC扶助制度についての案内より(抜粋)」

今後の課題と対応方針

■扶助制度の周知は図られてきたが、今後受益者負担と公的支援のバランスについて方針を明確にする必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

1 山県市合同部活動の推進と体制整備

少子化が進む現状を見据えた取組である「山県市合同部活動」(令和2年度から推進)は、6年度の後期では、22部中17部(昨年度12部)と大きく増え、単一校部活動は4部(昨年度12部)と大きく減少している。来年度中には、すべての部が「合同部活動」となる見込である。

2 地域部活動への移行を推進

休日地域部活動に参加した部活動は、昨年度の運動系8種目9部から本年度は11種目12部に増えた。このうち、軟式野球は11月から地域指導者体制が確保できなくなり、現在は学校部活動として行っている。

中体連大会には、陸上と卓球の2種目がTSCで登録し、参加した。

3 指導改善と内容の充実を図る取組

指導者研修会について、年間4回実施した。生徒への指導に生かすことを大切にしたい取組を行い、コーチと生徒と一緒に学ぶ機会を提供することができた。

●成果の評価

- 山県市合同部活動種目の推進については、山県市中学校長会が市の方針を受けて、主体的に具体的な取組方針を発信したことが有効であったと考える。
- 休日地域部活動への参加については、各部活動関係者の了解が得られることを前提として進めており、コーディネーターやTSC事務局が相談に乗りながら進めてきた。
- 中体連等の大会への地域クラブでの参加については、陸上と卓球の2種目であったが、TSCとして大会参加基準を明確にしたことにより、判断がしやすくなった。
- 地域部活動を推進するために、地域指導者の確保と質の保障は最も重要な条件の一つである。研修会の開催にあたっては、指導者の希望や生徒への還元を大切にしたい研修会の内容を工夫することが大切である。

●今後に向けて

- 学校部活動を地域部活動へスライドさせることが目的ではなく、中学生にとって豊かな体験や学びの機会を提供することが大切になるため、学校側とも内容について検討していく。
- 指導者謝金について、休日学校部活動に従事した際の顧問への手当金額を参考として設定を見直していく。
- 総合型地域スポーツクラブと体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員による連携体制を構築し、中学生だけでなく、市民スポーツ活動の充実を図る。

2.実証内容と成果②

中学生への意識調査結果

TSC中学生会員への意識調査結果報告【9月】

全 体

NPO法人Team-yamagata Sports Club

TSC中学生会員のみなさん、意識調査への回答をありがとうございました。

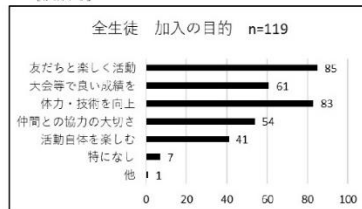
結果につきましては、TSC役員・理事、中学生スクールコーチで共有し、前回の意識調査の結果と合わせて、今後のTSC活動の充実・改善につなげてまいります。ご協力ありがとうございました。

スクール種目
1,2年会員数のうち
119人

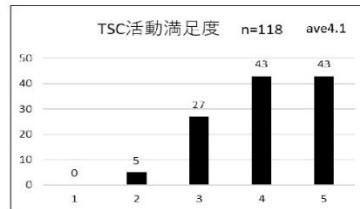
・バレーボール8 ・ハンドボール28 ・剣道7 ・サッカー8
・バスケットボール10 ・バドミントン10 ・卓球7 ・軟式野球11
・ソフトテニス21 ・陸上競技6 ・ソフトボール3

問1 加入のきっかけや目的

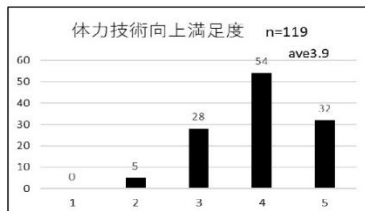
[複数可]



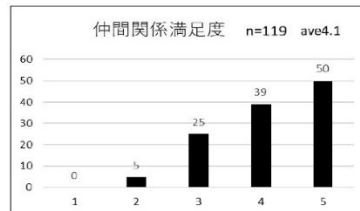
問2 TSCスクール活動の満足度



問3 体力や技能向上の満足度



問4 仲間関係の満足度



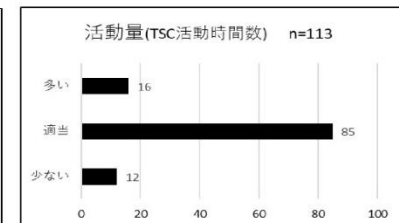
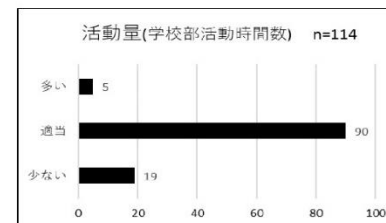
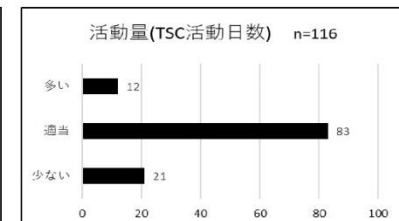
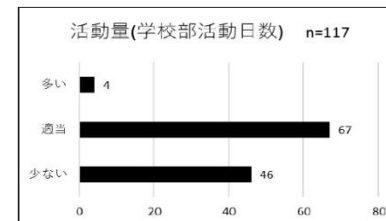
- 1 加入のきっかけや目的は、「友だちと楽しく活動、体力・技術を向上」が約70%と最も多かった。また、複数の項目を選択している生徒が殆どであった。
- 2 TSCスクール活動の満足度は、評価4と5が多く、平均4.1という結果であった。
(平均4以上は8種目で4.5以上は3種目、3点台は3種目)
- 3 体力や技能向上の満足度は、評価4が最も多く、平均3.9という結果であった。
(平均4以上は7種目で4.5以上は0、3点台は4種目)
- 4 仲間関係の満足度は、5が最も多く、平均4.1という結果であった。
(平均4以上は8種目で4.5以上は1種目、3点台は3種目)

【中学生会員への意識調査結果－1】

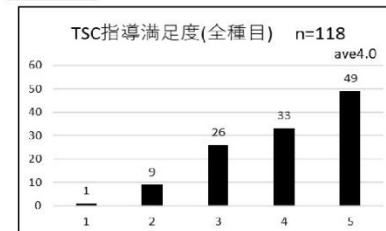
問5 現在の活動量(学校部活動含む日数や時間)について、どう思いますか。

*活動日数、活動時間について、当てはまるものに○印を付けてください。

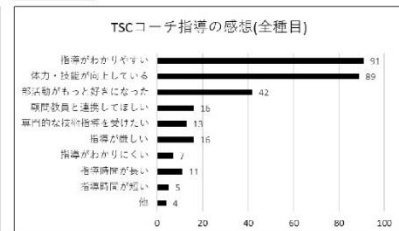
	学校部活動			TSC活動		
活動日数⇒	少ない	適当	多い	少ない	適当	多い
活動時間⇒	少ない	適当	多い	少ない	適当	多い



問6 コーチの指導の満足度



問7 コーチ指導の感想



- 5 活動量は、学校部活動については、約60%が適当、約40%が少ないとの回答であった。
TSCは、日数が70%、時間数が75%が適当との回答であった。
- 6 指導の満足度は、平均4.0であった。平均4以上が7種目(内4.5以上が4種目)であった。種目による差が見られた。
- 7 「指導がわかりやすい、体力・技能が向上している」は、それぞれ約75%であった。しかし、指導が厳しい・わかりにくい等といった感想も種目によってある結果となった。

【中学生会員への意識調査結果－2】

2.実証内容と成果②

中学生への意識調査結果

問8 部活動やTSC活動について、今後改善を期待することは何ですか。

今後の改善については、活動内容・活動量・休憩・指導・環境等について68の意見が出された。
活動内容及び指導内容・方法に関する意見が多くあった。

1 部活動・TSC活動の方針に関すること

- ・楽しく活動できている。・今のままの活動にしたい。
- ・部活動とTSCが同じ活動になって少しやりやすくなった。
- ・もっと楽しい活動にしたい。・体力をつけたい。・部活動はTSCと違うことをしてほしい。

2 活動頻度に関すること

- ・活動日数を増やしてほしい。・活動時間を短くしてほしい。
- ・日曜日や祝日を休みにしてほしい。・練習時間を守ってほしい。
- ・3時間あるからたくさん練習できて楽しい。・休憩時間を増やしてほしい。
- ・冬は平日部活動が全くないので、部活動をやしてほしい。

3 活動内容に関すること

- ・基礎練習が大半なので、チーム練習の時間をもっと設けてほしい。
- ・給水時間をもう少しだけとってほしい。
- ・試合をもっとやってほしい。・もっと試合のように本番通りやっていきたい。
- ・普段からやっている人とあまり参加していない人がいっしょにやると練習にならない。
- ・もっと打つ時間を長くしてほしい。・基礎練習の時間を増やしてほしい。
- ・1・2年生が学年問わず仲を深めるために、1・2年生が多く関わるような練習をしたい。
- ・練習メニューを増やしてほしい。・前衛と護衛をわけてそれぞれ練習したい。
- ・基本の動きもしっかりとできるようにしつつ、試合を増やしてほしい。
- ・もう少し実践的な練習をしたい。・お楽しみ会などがあるとよい。
- ・実践形式で練習をしたい。基礎がしっかりできているか確認したい。
- ・市内中学生の大会をやりたい。・雰囲気良く活動したい。

4 指導に関すること

- ・いろんなコーチがいてたくさんアドバイスをもらえるから成長してたの楽しい活動になった
- ・ソフトのTSCコーチは子どもへの思いを感じ安心して預けられます。
- ・動き方を一つ一つ丁寧に指導してほしいと思いました。
- ・もっと技術を教えてもらいたい。・フットを学びたい。・もっと専門的に教えてほしい。
- ・先輩が厳しい。コーチも厳しい。練習量が長くハード。
- ・同じ人に指導するのではなく、一人一人に指導してほしいと思う（TSCも）
- ・礼儀を教えてほしい（特に1年）・もっと厳しくしてほしいと思う。
- ・土曜日の先生が来たり来なかったりなので、ちゃんとした指導がされていない。
- ・レベルに合わせた指導をしてほしい。
- ・指導の際、悪かった点をもっと簡潔に話してほしい。
- ・指導が厳しくてやめる人がいるからそこを考えてほしい。

5 施設設備に関すること

- ・体育館で部活させてほしい。・大きな扇風機を設置してほしい。
- ・外周コースを整備してほしい。

6 移動、保護者負担に関すること

- ・他校での練習試合、送迎が難しいことがある 出来れば高富での練習を希望する。

7 その他に関すること

- ・今のところない。来年度、人数が増えて試合ができると良い。

【中学生会員への意識調査結果－3】

山県市立中学校部活動の地域移行プラン

山県市立中学校部活動の地域移行プラン

令和6年4月 山県市教育委員会

〈目指す姿〉

- 少子化の中でも、生徒がやりたい活動に継続的に参加できる機会の確保
- 生徒が「楽しさや喜び」を感じ、自己実現する学びの機会の確保
- 地域の持続可能で多様なスポーツ・芸術文化環境を一体的に整備し、生徒の多様な体験機会を確保

〈背景〉

- 少子化の進行（R5年615人→R15年370人）
- 生徒のニーズの多様化

〈山県市の方針〉 学校部活動を地域ぐるみの部活動（地域部活動）に移行する

- 学校の枠を超えた部活動環境を整備する ⇒ 山県市合同部活動
- 地域移行の鍵を握る運営団体・地域指導者を確保し、体制を整備する ⇒ 運動系・文化系地域団体との連携
- 生徒の志向性に対応する「プラス ONE」の活動環境を整備する ⇒ 競技・楽しみ・健康・体験等の志向性プログラム

国が示すスケジュール

令和4年度	5	6	7	8
体制構築 ガイドライン改定		改革推進期間		地域クラブ活動充実 ガイドライン見直し

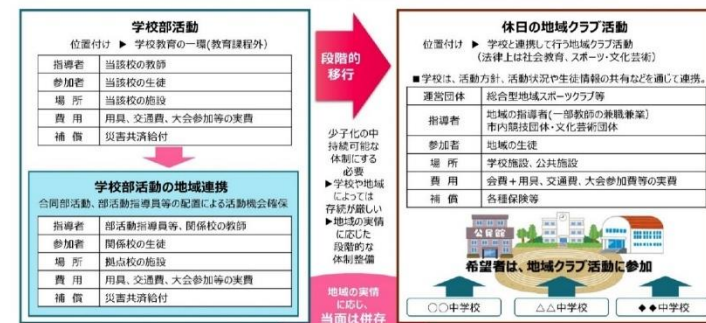
山県市の運営団体・実施主体

- 運動系部活動は、総合型地域スポーツクラブ NPO 法人 Team-yamagata Sports Club (TSC) に委託する。
- 文化系部活動は、まず地域指導者の確保を課題として取り組み、地域団体の協力を得て地域移行につなげる。

学校部活動の地域移行後の活動形態

平日	休日		平日	休日
学校部活動	学校部活動		学校／地域部活動	地域部活動

学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行の全体像（国ガイドライン）



学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（スポーツ、文化） 令和4年12月

【学校/保護者説明資料 山県市教育委員会作成】

2.実証内容と成果②

山県市立中学校部活動の地域移行プラン説明資料

「山県市立中学校部活動の地域移行プラン」について

令和6年4月 山県市教育委員会

1 地域部活動への移行の方針

国・県・市の部活動ガイドラインに沿った活動で、市教育委員会が認める地域クラブ活動に段階的に移行します。国・県は、地域移行期間を令和5年度～7年度末としています。

山県市においては、まずは「休日の部活動」を移行できる種目から進めていきます。令和8年度からは、「平日及び休日ともに地域部活動（地域クラブ活動）」として活動できるように、移行可能な種目から順次進めていく方針です。但し、状況により見直しも必要と考えています。

2 地域部活動への移行形態

地域移行の形態は、次の2つの形態となります。

(1)【連携型】学校／地域部活動

- 平日は、学校部活動。
- 休日は、地域部活動（地域クラブ活動）。
- 中体連大会は、学校チームとして出場。
- 競技団体主催大会は、学校又は地域クラブとして出場。

平日	休日
学校部活動	地域部活動

(2)【完全移行型】地域クラブ活動

- 市教委が認める地域クラブ活動。
- 平日・休日とも地域クラブで活動。
- 大会は、地域クラブとして出場。
- 完全移行は主に次のような活動形態。

平日	休日
地域クラブ活動	

3 これからの学校における部活動の位置付け

A 連携型部活動（平日は学校・休日は地域）

- ① スポーツ系… 市や学校で設置する種目
- ② 文化芸術系…

B 地域クラブ活動（平日・休日ともに地域）

- ① スポーツ系… 中学生が参加できる
- ② 文化芸術系… 地域クラブ活動プログラム

4 部活動プラスONE活動

生徒のみなさんのニーズに応えることができる地域のスポーツや文化芸術環境を整備します。

- 高いレベルで（トレーニング選抜レベルで）活動したい
- 部活動種目と違うことに挑戦したい
- 体験してみたい ○ 交流して楽しみたい
- 健康づくりや体力づくりを生かしたい 等

5 部活動の運営主体

- (1) 学校部活動の運営主体は、「学校」です。
 - ・代表責任者は「校長」
 - ・部の責任者は「顧問又は部活動指導員」
- (2) 地域部活動の運営主体は、「地域団体」です。
 - ・代表責任者は「団体代表者」（理事長等）
 - ・種目責任者は「地域指導者（コーチ）」

(3) 地域団体の条件

「地域団体」が学校に代わる運営主体となります。運営主体となる「地域団体」には、「持続性・信頼性」が求められ、組織や指導体制・実績・学校との連携体制が充実していることが求められます。

山県市は、市内3中学校で構成する合同部活動をはじめ、運動系部活動の運営主体としてTSC(NPO法人チームヤマガタスポーツクラブ)に委託します。文化系は、現有する地域団体との協議をすすめ、体制を整備します。

令和5年度から一部種目を地域部活動のモデル種目として先行実施をしています。

6 地域部活動参加における経費負担

学校／地域部活動の参加は、「希望加入制」であり、「会費」が必要となります。これは、「社会人指導者への謝金や事務処理のための費用」です。

山県市は、保護者負担が高額にならないように、「地域団体」に対して一部補助金を出しています。

7 地域部活動(地域クラブ活動)指導者の配置と条件

中学生が活動の楽しさや喜びを感じ、自己実現に向けて意欲的に参加できるようにしていくために、指導者の役割が重要です。

特に、地域部活動（地域クラブ活動）の指導体制として強調されていることは次の内容となります。

- 体罰・暴言の根絶、指導者の教育的指導や配慮が理解されている。
- 勝利至上主義に陥ることなく、適切な練習量と生徒の自己実現の場に徹する。
- 科学的、一貫性のある指導を行う。

そこで、地域部活動（地域クラブ活動）指導者には次のような条件が求められています。

これまで学校部活動の指導に協力していただいている社会人指導者やTSC、体育協会等のコーチ、また、学校の先生で地域指導者として希望される方も同様となります。

【地域指導者に求められる主な条件】

- 部活動のガイドライン、指導方針の共有、体罰・暴言・ハラスメント根絶を遵守できる。
- 指導者は、公認指導者資格を有している。又は移行期間の間で取得する予定であること。
 - ・岐阜県地域指導者育成研修会受講(3年ライセンス) → 運動系・文化系指導者ともに、
 - ・種目により、日本スポーツ協会や中央競技団体公認指導者資格が必要な場合あり。
- 指導者が原則2名以上確保できる。
 - ・顧問の代わりとなる主任コーチ、実技指導の担当コーチで構成できる。

中学校体育連盟は、地域クラブ活動での大会参加条件として、国・県ガイドラインの遵守とともに、公認指導者資格の所持並びに大会運営への協力等を条件として求めています。

8 今後の地域移行に向けた取り組み方について

部活動の管理・運営・指導を「学校」から「地域」に移行していくことは、容易なことではなく、様々な課題を解決しなければならないと思います。

特に、参加を希望する生徒のみなさんにとって、よりよい環境となるように、学校と地域が連携・協働して取り組んでまいりますので、宜しくお願いします。

9 地域移行に関わるQ&A

Q1：地域移行すると休日の学校部活動は行ってもらえないのですか？

A1：地域指導者体制が整った種目から、休日活動は地域部活動に移行します。

但し、学校が設置する種目で地域指導者体制が整わない種目については、整うまでの間は学校部活動の実施について協議していきます。

Q2：社会人指導者の方が2名おられ、休日部活動以外に保護者クラブでの指導もしていただいています。こうした場合の地域移行の仕方はどのようになりますか？

A2：運動系部活動の地域移行先（運営主体）は、TSCとなります。

移行の手順は、次のようになります。

- ① 条件を満たす指導者が確保できる。
- ② 保護者会の承認を得る。
- ③ 学校、市教育委員会の承認を得る。

【例：運動系種目S】

スクールA【地域部活動】土曜日 午後
スクールB【プラスONE】日曜日 午前

移行後は、上の例のように、TSCのプログラムとして活動することになります。具体的な活動内容（日時・場所等）は、事前にご相談頂くと良いと思います。

なお、地域指導者の確保が困難な場合は、事前に学校を通じてご相談ください。

Q3：市内に同じ種目の部活動が2校、2チームありますが、移行期間の間に山県市合同部活動1チームにしなければなりませんか？

また、こうした場合の地域移行はどのようにになりますか？

A3：単独校での活動を希望される場合は、学校長と協議してください。

将来構想を踏まえ、いつまで単独チームとして活動するかを検討し、計画的に進めることが必要です。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【サッカースクール】



【バスケットボールスクール】



【バドミントンスクール】



【ソフトテニススクール】

2.実証内容と成果④

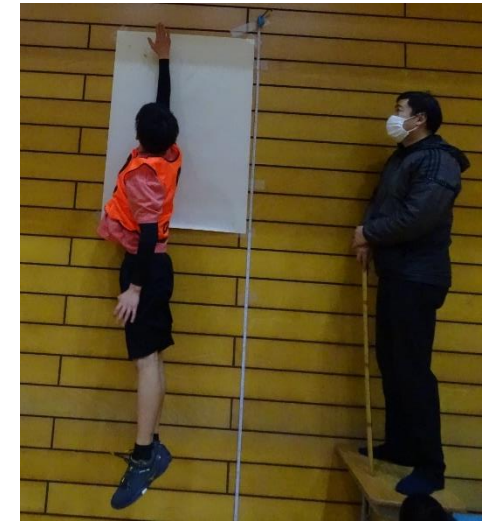
参考資料（活動写真）



【体力測定会参加者への説明】



【立ち幅とび】



【垂直とび】



【5方向走】



【反復横とび】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

推進会議
設置/協議

教員意識調査
地域団体打診

方針・計画
受け皿団体

令和5年

地域部活動
モデル先行実施

令和8年

地域クラブ活動
完全実施

令和9年

地域クラブ活動
平日も実施

「山県市合同部活動」開始

●市教委

- ・少子化と安定的活動保障
学校の枠を超えた参加環境

●経過

- ・令和2年度開始 2種目
- ・令和3年度 10種目
- ・令和5年度 11種目

●実施にあたって生じた課題

- ・拠点校への移動→バス運行
(水曜日放課後バス運行)

●実施内容、工夫した点 等

- ・合同部活動の必要性理解
- ・関係者の合意を得て

山県市地域部活動推進会議

●委員構成

- ・元大学教授・元教育長
- ・地域団体・保護者代表
- ・学校代表・教育長
- ・市教委担当

●経過

- ・年3回会議開催
- ・部活動の現状と課題
- ・山県市に合った方策

●実施にあたって生じた課題

- ・文化系の受け皿団体困難
- ・一律実施は困難

●実施内容、工夫した点 等

- ・一律でなく「できることから」
行う段階的に試行しながら
検証していく。

「地域部活動モデル事業」開始

●運営団体(運動系)

NPO法人TSC

●経過

- ・モデル種目の選定はTSCと
連携している部から実施

●実施にあたって生じた課題

- ・会費・移動負担・他クラブ
加入生徒等から合意が得
られなかった部があった。

●実施内容、工夫した点 等

- ・運営団体の運営や指導上
の課題に対して、コーディネ
ーターを中心に働きかけて
軌道に乗せるようにした。

「地域クラブ活動」完全実施

●方針

- ・山県市合同部活動移行
- ・休日部活動の完全移行
- ・平日放課後も完全移行
(希望教員は職専免で)

●課題と対策

- ・活動場所への移動支援
→送迎バス運行支援
→平日1日＋土曜日
- ・大会への地域クラブ参加
→大会参加基準の明確化
- ・受益者負担と支援方針
- ・文化系部活動の地域移行
→指導者確保
→学校施設の使用方法
- ・多様なニーズと地域環境

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

山県市立中学校部活動の地域移行推進計画

令和6年4月 山県市教育委員会

年度		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
		令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	令和 8	令和 9	令和 1 0	令和 1 1	令和 1 2	
提 言 等	スポーツ庁・文化庁 岐阜県	中学校部活動の在り方検討会議 (実証事業)			地域移行等活動整備事業 (実証事業／補助事業)			進捗状況を検証し、さらに改革					
		国／県 総合的なガイドライン策定 (令和5年3月)			部活動改革推進期間			平日の部活動・大会参加の地域移行					
	(公財)日本中学校体育連盟	学校単位(一部複数校合同)での参加			大会参加資格の緩和(令和5年度から地域クラブ活動の参加条件通知)								
市 方 針	山県市	第Ⅰ期「山県市合同部活動」設置と推進						第Ⅲ期「地域部活動」完全実施					
		部活動と地域クラブの連携(since2001) 平日は学校で・休日は地域で 街ぐるみで子どもを育てる			第Ⅱ期「地域部活動」段階的移行			「新しいスタイルの学校部活動」スタート ○平日は学校で、休日は地域クラブで さらに「平日含めた完全移行」(実証事業▶拡充)					
					学校部活動の地域連携								
市 立 中 学 校 部 活 動	高富中	432	432	402	420	415	409	411	410	393	358	324	
	伊自良中	73	69	71	72	65	65	66	64	60	56	52	
	美山中	139	139	138	123	106	99	96	96	90	80	70	
	市内中学生数	644	640	611	615	586	573	573	570	543	494	446	
	山県市合同部活動	運動：2部	運動：6部 文化：4部	運動：6部 文化：4部	運動：7部 文化：4部	運動：10部 文化：4部	○部員数の状況及び学校・生徒・保護者の合意形成 ▶ 学校単位から市単位への移行。 ○種目の追加／変更(生徒のニーズ、地域の環境)						
	学校部活動 の地域移行					「休日」は地域部活動へ段階的移行 (保護者会等の合意形成)			休日部活動の地域移行 → 平日／休日部活動の地域移行				
	学校部活動 の地域連携					地域指導者や専門家の派遣による 地域連携							
	設置部活動					設置種目部等の検討							
市 地 域 ク ラ ブ 等 環 境	総合型地域スポーツクラブ NPO法人 Team-yamagata Sports Club	高富中学校区→山県市		○多種目・多世代・多志向プログラム・受益者負担とボランティアシップによる運営									
		中学生の参加できるプログラム提供 ～スクール、スポーツ広場、スポーツ教室～			運営団体・実施主体として 実証事業の実施と検証			小中学校連携・一貫指導体制の構築					
	スポーツ関係団体	競技大会出場・運営、市民参加大会開催			指導者の資質向上 ▶ 県・市研修会 JSPQ等公認指導者資格取得の促進 指導者の質の保証と量の確保 / 大会参加・運営協力								
	文化芸術関係団体	小・中・高校生対象講座開設 舞台芸術振興			地域指導者、専門家の派遣 中学生の参加できるプログラム			指導者協力/小中学生向け講座・催し/運営協力					
	公民館/文化ゾーン	市民向け講座/サークル/催し			運営団体・実施主体の確保								